

< 県より HUG 避難所運営ゲーム講習会 >

2011年11月27日

報告者 川島さゆり

意見交換 ネコについては、受け入れ OK に。家族と同じ。基本的にペットは可にすること。今回の東日本大震災でも数カ所の避難所で受け入れた。

犬については、ムダぼえする犬は隔離。基本的にゲージに入れて避難することがルール。基本的にペット持ち込みは可。

地域エリアはあった方がいいかもしれない。

両親なくした子どもは同じ地域にしたグループがありましたが、防災衛生携帯が備蓄品の中にあるので、すぐに行政に電話をし、連携をとる。怪我、病気も同じ。

運営メンバーだけの運営はダメ。多くの方に手伝ってもらおう。

マンパワーが、必要。

消防学校の一時避難所。ご年配の方を、トイレに近い方がいいと
体育館の入り口近くに配置するのは、体育館の寒さが身に浸みダメ。

栄村の例でいくと、女性の方は、男女共用のトイレは使いにくい。

トイレは男女別に。防犯上、暗い所は避け、明るい場所に。

子どもは体育館での避難の場合、夏でしたら入り口でも大丈夫。

トイレについて、各人の持ち出し品の中、新聞、ビニール袋、

サランラップ（食器洗わず済む。止血どめにも利用。）に入れる。

トイレの配管が流れるものなのか、確認が必要。トイレによっては、
プールの水で流れるものもあるので確認しておく。

配管が、耐震性のものかどうか。マンホールがトイレになるものもある。（東京、松本）避難所ごとに、配管が使用できるか確認が必要である。使っていいという、指示がでるまでは、使用しないことも大事。 衛生をまず、考える。阪神大震災では、女子高校生がトイレをきれいにした。目隠しの役目もある。男女別に使う。

事前に運営会議しておいた方が、スムーズに進む。

上からでなく、各組織におろして、意志決定してから、動く。

避難所に来る方は、普段の心情ではない、家をなくした、親をなくしたということで来る方もいる。

受付でナース、ドクター、英語通訳など資格のある人を把握しておく。

避難訓練の避難所自体で HUG を行う。我慢をしなければならない

事覚える。わかる。避難所では、「我慢する、譲り合う気持ち、感謝の心」が必要。

ボランティアをお願いできる時間は？事前に組織化、役割決まっているといい。最初に避難してきた時に、受付で避難場所が変わるかもしれませんと徹底する。

HUG の訓練は試験ではない、防災に試験はない、継続しなければいけない。楽しくやる。防災は子どもまでの時代、その先まで引き継ぐ、世代を超えて、子孫に伝えるもの。

災害は、忘れた頃にやってくる、忘れないことだ。一つの訓練ではいけない。複数の訓練が大事。

ある避難訓練

発災しました→広場に集まりました→安否確認→炊き出し→昼食
→講演聞きました→解散

では、ダメ。避難訓練の時に非常用持ち出し持ってくる。おじいさん、おばあさん連れてくる。車イスの要介護者は？本番さながらでプラスアルファして想像していく訓練をしていくことが大事。